ごあいさつ

特定非営利活動法人つばめっこ
理事長　桑原　則子

　この子ども達と遊びたい！もっともっと外に連れ出したい！…という気持ちだけで、後先何も考えず、平成 15 年に任意団体として「つばめっこ」を立ち上げました。幸いにもすぐに、仙台市障害児放課後ケア支援等事業の補助金を受け取ることができ、土曜日と長期休暇だけでしたが年間 36 回の活動を開始できました。
当時は拠点となる場もなく、活動の敵は“突然の雨”でした。
予定の行き先が変わったり、街の中を気持ちよく歩く予定が傘をさして歩くことになったりなど、急に活動内容が変更になることも多々ありました。
　平成 18 年 3 月には、仙台市から支援をいただいて「福室つばめっこ」を開設しました。拠点ができたことで長期的な計画に基づいた活動ができるようになり、気持ちに余裕ができた一方、子ども達に対する責任感もより一層強く感じられました。
　平成 19 年 1 月には、自立支援法の児童デイサービス「泉中央つばめっこ」を開設するにあたり、法人格が必要となり、任意団体つばめっこは特定非営利活動法人つばめっこと変わりました。
　その後、法人設立から 10 年間、つばめっこに集う子ども達にとって『必要なこと』も多様に変化しており、そのためデイサービス事業所も 4 ヶ所となり、平成 23 年に短期入所、平成 28 年には相談支援事業所を開始することとなりました。
　この 10 年という短い期間に 6 ヶ所の事業所を開設できたのは、いつも法人会員の皆さまがつばめっこを必要とし、ご支援くださっているおかげです。
お世話になった行政関係者、地域の方々、関係機関の方々、保護者、つばめっこ職員には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。
　また、つばめっこに関わっている皆さまのご協力・ご意見・ご要望の全てが、法人の力の源となっています。
これから 11 年目からも、皆さまと一緒に新しいつばめっこの歴史を作っていきたいと思いっていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人つばめっこ創設10周年記念誌の一部です。

つばめっこのあゆみ

特定非営利活動法人つばめっこ
副理事長　佐藤　さち子

平成 15 年、つばめっこは余暇活動のサポートを目的に、長期休暇、土曜日を活動日としてスタートしました。

当時は子供たちの多くは余暇をお母さんと家庭で過ごすことが多く、経験も乏しく、行動範囲も狭くなっているのが現実でした。

同年代のみんなと同じことが当たり前にできるはず、できなくしているだけだからやってみよう、そんな思いが始まりの原点でした。

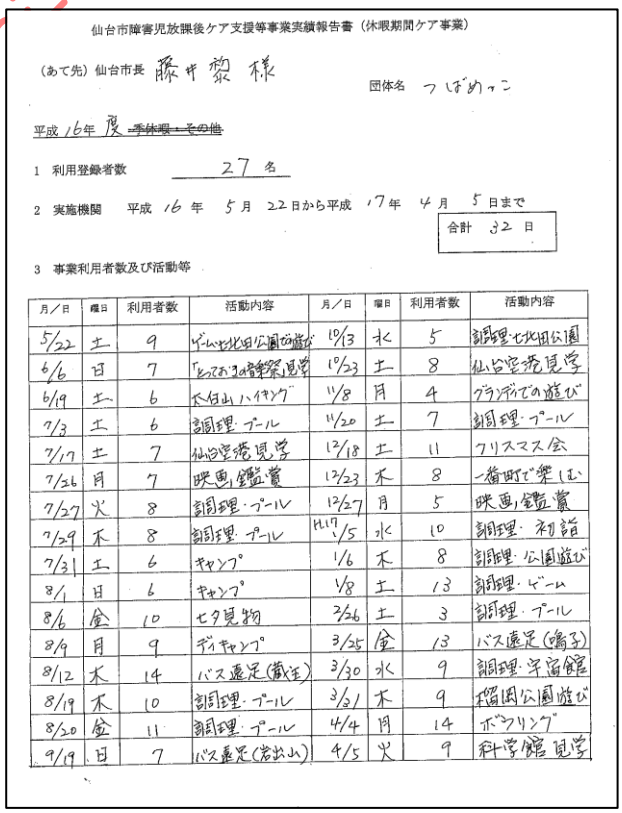
拠点もない中、先ずは電車やバスに乗ってみよう。初めはみんなドキドキ、でもちゃんとできました。その後キャンプや調理、プール、映画等、いろんな事に挑戦しました。

それがいつも本当に楽しく、子供たちは活動を通し、歩みはゆっくりでも、経験を積み重ねる事で確実に自分の力にできる事を示してくれました。

それを支えて下さったのは、いつも送迎して下さる保護者の皆さん、学生ボランティアの皆さんでした。子供たちを主役にみんなが一つになり、つばめっこは動きだしました。

18 年からは放課後も過ごせる場として新たに拠点を持つに至りました。19 年にはNPO法人を取得、その後事業所は 4 か所となり、23 年にはショートステイも加わり、今年相談支援事業も始まりました。こんな日が来る事を誰が想像したでしょう。

喜ばしい事に事業所が沢山増えています。つばめっこも原点の思いを忘れずに、これからも皆さんと一緒に歩んでいきたいと思います。



仙台市障害児放課後ケア支援等事業実績報告書（休暇期間ケア事業）

（あて先）仙台市長 藤井 黎 様　　団体名 つばめっこ

平成 16 年 度 ~~季休暇・その他~~

1 利用登録者数　27 名

2 実施機関　平成 16 年 5 月 22 日から平成 17 年 4 月 5 日まで　合計 32 日

3 事業利用者数及び活動等

月／日	曜日	利用者数	活動内容	月／日	曜日	利用者数	活動内容
5/22	土	9	ゲーム七北田公園で遊ぶ	10/13	水	5	調理・七北田公園
6/6	日	7	「もってあるの音楽祭」見学	10/23	土	8	仙台空港見学
6/19	土	6	太白山ハイキング	11/8	月	4	グランディでの遊び
7/3	土	6	調理・プール	11/20	土	7	調理・プール
7/17	土	7	仙台空港見学	12/18	土	11	クリスマス会
7/26	月	7	映画鑑賞	12/23	木	8	一番町で楽しむ
7/27	火	8	調理・プール	12/27	月	5	映画鑑賞
7/29	木	8	調理・プール	H17 1/5	水	10	調理・初詣
7/31	土	6	キャンプ	1/6	木	8	調理・公園遊び
8/1	日	6	キャンプ	1/8	土	13	調理・ゲーム
8/6	金	10	七夕見物	2/26	土	3	調理・プール
8/9	月	9	ディキャンプ	3/25	金	13	バス遠足（鳴子）
8/12	木	14	バス遠足（蔵王）	3/30	水	9	調理・宇宙館
8/19	木	10	調理・プール	3/31	木	9	榴岡公園遊び
8/20	金	11	調理・プール	4/4	月	14	ボウリング
9/19	日	7	バス遠足（岩出山）	4/5	火	9	科学館見学

平成 16 年の活動報告書です。→

仙台市へ提出していた時期がありました。

特定非営利活動法人つばめっこ創設10周年記念誌の一部です。

つばめっこ 10 周年記念　スペシャルインタビュー

～ちょっと二人に聞いちゃいました♪～

挨拶（委員）
つばめっこ 10 周年記念スペシャル、ちょっと二人に聞いちゃいましたと題し、代表である桑原さんと佐藤さんのお二人にお話をお伺いしたいと思います。
本日はお時間をいただきまして、ありがとうございます。

桑原理事長（左）と佐藤副理事長（右）

（委員）　最初は、意外にみんな知らない、お二人の出会いから教えてもらいたいです。
（桑原）コスモスクラブです。先にさち子さんがいて、後に私が入ったんです。
（委員）コスモスクラブは、放課後デイですか？
（佐藤）そうです。
（桑原）子ども達の居場所がないということで、お母さん達が、集まって。最初、拠点がなくて、光明の体育館とかやプールをお借りして、活動してね。
（佐藤）でも、比較的早く、拠点は鶴ヶ谷の方に見つけてね。
（桑原）その後で、お母さん達が仙台市にかけ合って、仙台市の障害児放課後ケア等支援事業という補助事業が始まって、その補助を受けて家も借りられるようになったのよ。
（委員）どのくらいの期間、コスモスクラブにいましたか？
（桑原）2、3 年くらいかしら。
（桑原）その後、コスモスクラブに来てくれていたボランティアの学生さんや、お母さん達が“手助けするからやったら？”って言ってくれて…で、私達も、このままじゃ、やめたくない思いがあって。本当にちょっと「一緒に遊びましょう」っていう、「一緒に遊ぼう」、「知っている子おいで」って言っただけの集まりから始まったのよ。
（佐藤）最初は、放課後ケアとは別に、年間 32 時間だけの土曜日と長期休暇活動。だから仙台市の方からも、休日と長期休暇だけでの支援事業ということで、補助金を頂いていました。

特定非営利活動法人つばめっこ創設10周年

（委員）そうすると、きっかけは、コスモスクラブを辞めて、二人とも何もしていなかった時に、コスモスクラブを利用されていたお母さん達と学生のボランティアさんですね。
（桑原）そう、ボランティアさんが本当にすごくて、自分達でいろいろ企画してくれて…。熱意がすごかったわね。その学生さんがいなかったら、ちょっとできなかった。
（委員）新しいものを立ち上げるというのは、結構、大変ではなかったですか？
（桑原）立ち上げる感覚じゃなかったの。遊びたいしかなくて。
（佐藤）正直、ここまできたのは、成り行きのような…（笑）
（委員）その出会ってきた人との関わりの中で、大きくなってきたということですか？
（桑原）自分達も一緒にやるから、やろうよといった感じで、私達は私達で、子ども達と遊びたいなっていうので、それが一緒になっただけのことで。遊ぶしかなかったわね。で、その長期をやっていたら、仙台市の担当者から助言もあって、そこから福室が始まったのよ。
（佐藤）たまたま、その頃、この仙台市の高砂地区になかったので、こっちでどうですかという、お話があったのよね。
（桑原）だけど、仙台市の補助金を使う事業だから、軽く考えられないことも感じたわね。
（委員）その時、法人格はありましたか？
（桑原）その補助事業は任意団体でも大丈夫だったのよ。
（佐藤）で、当時は、本当に少なくてね。
今でこそ、すごい数ですけど。
当時は、４ヶ所？５ヶ所くらい？
（桑原・佐藤）コスモス、ピーター、ぱるけ、せんだん。

（桑原）だから、うちは５番目かな。
（委員）法人格取得前の活動が、長期だけのものから放課後デイに移り変わっていったんですね。
（委員）気になっていたんですけれど、どうして“つばめっこ”なんですか？
（佐藤）なんて説明したら良いかね？ぱっと浮かんだわけではないの。
（桑原）何しよう、何にしようって言って、考えて、考えて、決まらなかったけど、ふとした瞬間に思いついたのよ。
（委員）どなたの思いつきですか？
（桑原）どっちかよね。
（委員）二人のひらめきですね。由来の方は？
（桑原）由来…
（佐藤）意味、後付けすれば、つばめの巣立ちを子ども達に例えてね。
（委員）同じ所に帰ってくるイメージもありますよね。
（佐藤）そうそう。今思うと、いい名前だったかなって思っています。

特定非営利活動法人つばめっこ創設10周年記念誌の一部です。

（佐藤）本当に『拠点がない頃のつばめっこが今の姿の基本』ですかね。
つばめっこには車もなかったので、公共交通機関を使って出かけて、子ども達もちゃんとできたので。私達も絶対信じる、子ども達には絶対、力はあるって、信じて、実際にやってできたのよね。
その年代の子ども達がやれることは、この子達だって絶対できると思っているのよ。
（桑原）だから、本当に、今のつばめっこは、ずっと同じことの繰り返しだけど、お出掛けというのが基本で、同じ年代の子ども達がやっているようなことを、うちでやっていってもらいたい。
繰り返し、繰り返し、何回でもね、できるようになってもらいたいなぁって。
（佐藤）お母さん達は、なかなかお家で連れて行くっていうのが大変なので、こっちで数を踏んでおけば、お家でもできるようになる。
実際にね、レストランにも行けるようになったとか、バスとかにも乗れるようになったとか、話をもらっていたのでね。
最初は２、３人で、皆、　小学生だったわね。
とにかく拠点がなかったので、主に、泉の障害福祉センターや水の森の市民センター、あそこはプールもあるので、午前中にカレーを作って、午後からプールに入って、そんな感じで遊んでいたわね。
で、あとはやっぱり、当時は歩くこともすごく大事にしていたの。
どうしても、車移動が多いから歩くことも大事だよねって感じて、結構な時間歩いていました。
（桑原）結構ねぇ、皆、歩いたの。
（佐藤）雨の日でもね。皆、歩いたよ。
（桑原）なんだろう、うちに来たら、皆しょうがないって気持ちになっていたのかな。
（委員）でも、なんか子ども達ってそういうところありますよね。
（佐藤）泉の障害者センターから七北田公園まで歩いたこともあるけど、皆、歩いていたわね。
（桑原）仙台駅から夏祭り、西公園まで歩いたこともあったわね。
（委員）すごぉい。
（委員）じゃ、お二人と、ボランティアさんとで。
（桑原）何人かスタッフは集まったけど、でも、やっぱりボランティアさんには支えられていました。
（委員）法人取得前の活動で、楽しかったことや大変だったことはどのようなことがありますか？
（桑原）子ども達と遊ぶこと自体は楽しいことだったので、あまり大変だと感じることはなかったです。
（佐藤）大変なのは、拠点がなくて会議することさえ難しかったことでしたね。
（桑原）日帰り温泉の広間で会議をやったりして（笑）。
（委員）ボランティアさんが集まらず、人手が足りないということはありましたか？

特定非営利活動法人つばめっこ創設の周年記念誌の一部です。

（佐藤）十分な人手がないというのは当時から変わらないけど、きちんと法人化してスタッフを雇える体制にしないとやっていけないと思っていました。仙台市の補助金だけでは赤字で、時間単位でいただいていた利用料もその時の活動で使い切る額でした。
その頃、法律が変わって支援費制度から障害者自立支援法になり、児童デイサービスが始まったのかな？保護者の負担金も一カ月の上限額が決められていたんですよね。

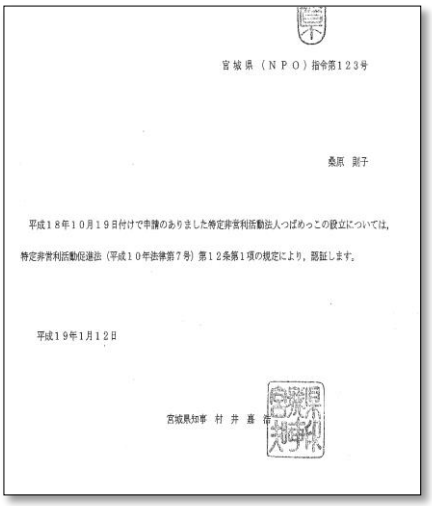
（桑原）それから法律がどんどん変わり、児童デイサービスを未就学児だけでなく小学生も使えるようになりました。
その児童デイサービス事業を行うには法人格が必要だったので、手続きを始めました。全く分からないところから一つ一つ書類を整えてどうにか立ち上げることができました。
その前の任意団体の時に福室で障害児タイムケア事業と言うのをやっていましたが、法人格を取得しようとしたタイミングで庄司さんと出会い、新しく泉中央に建てる駐車場ビルの一部をつばめっこの活動に提供して下さるとの申し出をいただいて、法人設立後の最初の事業所として泉中央つばめっこがスタートしました。

（委員）NPO 法人設立の手続きは、お二人だけでされたのですか？

（佐藤）手続き自体は二人で行いました。
仙台市に協力してもらったのは拠点探しです。

（桑原）法人設立の手続きは大変ではなかったけれど、その前、任意団体の頃の拠点探しが大変で、当時、仙台市の担当者にとても助けられましたね。

（委員）ご縁というか、巡りあわせのようなものがあるのですね。


宮城県（ＮＰＯ）指令第１２３号

桑原　剛子

平成１８年１０月１９日付けで申請のありました特定非営利活動法人つばめっこの設立については、
特定非営利活動促進法（平成１０年法律第７号）第１２条第１項の規定により、認証します。

平成１９年１月１２日

宮城県知事　村　井　嘉　浩

「特定非営利活動法人つばめっこが誕生しました♪」
認証書です→

（桑原）自分達が大きくしたいと考えたからではなく、周りの声や支援があって少しずつ広がって行ったんですよね。小学生が成長し中学生になれば、中学生のための施設が必要だと思うし。子どもたちの顔を見ていると、途中で終わりには出来ないんですよね。

（佐藤）去年からやっと卒業生のためのイベントを始めることができました。
ずっと私たちの夢だったんですよ。やっぱりあの当時一緒に遊んだ子どもたちが、大人になっても一緒に余暇活動ができたらいいと思っていたので。同年代の人はお酒を飲んだりするでしょうから、そういう集まりを企画するのも良いかもしれませんね。まだ始まったばかりです

特定非営利活動法人つばめっこ創設10周年記念誌の一部です

が、いずれは色々出来ればと思っています。
就労施設などを作ってしまうと、関わる人数が決まってしまうでしょう？でも偶の楽しみであれば、誰でも好きな時に参加できるじゃない？

（委員）仕事場の他に、自分が行く場所があるというのは大きいでしょうね。どうしても行ける場所は限られる子どもが多いから。

（委員）今までの活動で取り組んできた中で、思い出や印象深かったことは何ですか？

（佐藤）そうですね。印象っていえば、私がよくする話ですけど、本当にね、当時は重度のお子さんが多くてね。

（佐藤）今はすごい幅が広がって、いろんなタイプのお子さんがいますけど、当時は、本当に、まだその、コミュニケーションの手段も確立していないとか、おむつとかもね、まだはずせないとか…。
でもある時に、本格的なレストランに連れて行ったのよ。
その時は、ちゃんと、ナイフ、フォークがあって、ゴブレットの本格的スープ。

（佐藤）本物ですよ。そして、いつも、本当にチョロチョロする子どももいましたけど、でも、思いきって連れていったわ。
たまたま、そこのオーナーの妹さんも障害があるっていう方で、そこにどうぞと、言われたこともあって行きましたけど、そしたら、いつもチョロチョロ、ピョンピョン跳ねるような子どもでも、ちゃんと座っているのよ。

（佐藤）でっ、グラスも壊さないで。ちゃんと飲みました。ちゃんと食事もしました。
最後に、大人にコーヒー、子どもにアイスのデザートをもらいました。
そしたらね、まだ、中学生の子どもが、ちょっと大人だと思われたか、コーヒーを渡されて…。でも立派に飲んでいたわね。

（桑原）あの雰囲気は、とても良かったわね。

（佐藤）絶対できるっていうことを実感したわ。

（委員）そういうのをたくさん見てこられたからこそ、今でも、子ども達にいろんな経験させて、できるってことを知って信じることが信念なのでしょうね。

（佐藤）そうですね。

（桑原）一番は、障害でできないことがあって、いろいろあるだろうけど、とにかく、何でもやらせてみて、それが嫌だったら、不快だったらそれ以上やれとは言わないし、でも、どっかはできる。みんなできる。
友達同士でいっぱい行くと、子ども同士でも気を遣ってくれて、仲間意識がすごいわ。

（佐藤）だから、ほら、さっき言った、歩け歩けって、歩かせていた時、その時もね、早く行った子は遅く来る子をちゃんと待っている。
だから、こっちがこうしなさいって教えるのではなくて、子どもが自分で自然に身についているっていうのはあるかなと思うわね。

特定非営利活動法人こばめっこ創設10周年記念誌の一部です。

（桑原）人がやっているのを見て、できないことも、やれるようになってくるし、お互いに、何ていうのかしら、相乗効果みたいなものがすごく見られたわね。
（佐藤）でも、公共のマナーを守ってというところは、無神経になってはいけないわね。
ただ、窮屈だと、多分、子ども達はね、受け入れないと思うのよ。
だから常に楽しい思い、快の状態、楽しい思いがあれば、受け入れると思うわ。
（佐藤）だから今でも、私達は、スタッフに言うのねぇ。
自分達も楽しんでください、活動を考える時もね。
（委員）何かね、いろいろ話せば話すほど、思い出してくるし、聞いている方がすごい楽しくなってきてしまって、つい時間を忘れてしまいますけれども。
（委員）もっとね、いっぱい聞いていたいけれど。
（桑原）失敗談をね。
（委員）いえいえ、もっと聞いていたいですよ。ですが、そろそろ次の話に移らないといけないので…。
（委員）活動などに対しての理想と現実のギャップを感じますか。
（桑原）最近は、法律に基づいてやっていますよね。
法律に縛られて、以前のように、純粋に子ども達と楽しむような活動ができなくなってきているかなぁって思うわね。
で、あと、職員にしても、必要なことだけれど事務仕事に割かれる時間が増えているわね…。
（委員）そうなんですねぇ、これまで過去・現在と話を聞かせてもらいましたが、最後にこれからのつばめっこの希望をお聞かせください。
（佐藤）一応、アンケートは取っていて、なるべく皆さんの意見を取り入れていこうって、まず、長期の活動時間をね、延長しましたが…。
まぁ、土曜日活動も全事業所でやるようになって。
少しずつ取り入れてはいますが…。
（桑原）デイサービスってやろうとすると、卒業生と今デイサービスを使っている子ども達と一緒に何かやりたいなとしても、それができないのよね。
NPO の事業でやればいいことでしょうが、そうなると、お金がでてこないので、人件費が難しくなって…。
何か、そういうのをこう、自由にできるといいのかなぁって思うわね。
（桑原）あと他は、若い人に聞いてください。
（佐藤）まぁ、私達はとにかく、始まった時のこう、思い、それを…
（桑原）障害あるなしに係わらず、子どもですから、その年齢の子ども達がやっているであろうことを、どんどん、いろいろ経験してもらいたいと思います。
（佐藤）生活年齢も大事にしたいわね。
（桑原）子ども同士がつながっていてほしい。
（佐藤）子ども達、皆、忘れないからねぇ。

特定非営利活動法人つばめっこ創設10周年記念誌の一部です。

お家にいるだけではなく、何かひとつのことが、つばっこを通してきっかけになってくれれば。

＜最後に…＞

（委員より）
今回のこのインタビューを読んでもらって、少しでも多く思いが皆に伝わればいいなぁって、すごく思います。
きっと、つばめっこがどのような経緯でできたかを知らないで、入っている人も多いと思います。だから伝わってほしいです。

つばめっこの理念

自宅のある地域の中で、学校でも家庭でもないもうひとつの居場所として、子ども達が安心してゆったりと楽しく過ごせる場を提供する。

様々な社会体験や実生活に結びつく活動を積み重ねることで、生きる力を育み、生活の広がりを促し、より豊かに過ごせるように支援する。

本人にとっても家庭にとっても、よりどころになるような存在を目指す。

年　表

平成１５年	つばめっこ活動の開始
平成１８年３月	福室つばめっこを開設
平成１９年１月	特定非営利活動法人を取得
９月	泉中央つばめっこを開設
平成２０年９月	栄つばめっこを開設
平成２１年５月	市名坂つばめっこを開設
平成２３年６月	つばめっこハウスを開設
	市名坂つばめっこをつばめっこハウス内に移転
	名称を市名坂つばめっこから七北田つばめっこに変更
平成２７年９月	福室つばめっこ移転
平成２８年３月	つばめっこセンターを開設

特定非営利活動法人つばめっこ創設10周年記念誌の一部です。